
日本子ども社会学会 学会ニュース

第 14 号 (2007/11/01)

日本子ども社会学会事務局

658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23 甲南女子大学人間科学部行動社会学科 細辻研究室気付

FAX :078-413-3007(人間科学部事務室) E mail :jscs@kodomo-cu.jp

U R L : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscs2/>

目 次

会長就任にあたって 1	第 14 回大会総会報告 5
会長任期を終えて 2	平成 19・20 年度役員名簿 7
第 15 回大会開催校について . . . 2	各種委員会からのお知らせ 11
第 15 回大会開催校から 2	事務局からのお知らせ 12
第 14 回大会報告 3	新入会員,住所・所属等変更,退会者 . . . 13

会長就任にあたって

住田 正樹

原田前会長の後を引継ぎ、会長をお引き受けすることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会も、若い会員の方々が増え、会員数も 600 人を越えるほどになりました。間もなく設立 15 年になりますが、このような短い期間に会員数が増えていったのも、子どもを取り巻く環境や子どもを巡る諸問題に対する人々の関心が極めて高いことを示していると思います。

しかしその反面、大会発表数は会員数に比例するほどには増えていないように思いますので、会員の方々にはぜひ積極的に大会発表をお願いしたいと思います。と同時に紀要『子ども社会研究』にも積極的な投稿をお願いいたします。大会発表数は、学会のバイタリティを示す指標であり、『研究紀要』は学会の顔とも言えるでしょうから、会員の方々には子ども社会研究に一路邁進していただき、その研究成果を積極的に発表するとともに論文として投稿していただき、子ども社会研究の発展に寄与していただきたいと思います。若い会員の方々は勿論のことですが、年配の先生方にもぜひお願いしたいと思います。率先垂範し、指導的役割を担っていただきたいと思います。また現場の実践者の方々には自らの実践・経験を発表していただき実践と研究の架橋的役割を担っていただきたいと思います。

以て、子どもたちのように、元気澆刺、活発地の本学会の意義と存在を内外に示したいと思っています。

学会も設立 15 年になりますから当初は予想していなかったような問題も出てきていると思います。学会活動や学会運営につきまして、ご意見・ご要望、あるいはお気づきの点がございましたらどうぞお寄せください。理事の先生方、また各種委員の先生方と協議させていただいて、可能な限り取れ入れていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長任期を終えて

原田 彰

2003年6月から4年間にわたって会長を務めさせていただきました。この間、会員の方々の研究発表等のご活動、理事・事務局長・事務局員・各種委員会委員の方々の献身的なお仕事に感謝申し上げますとともに、至らぬ私の務めぶりをお詫びいたします。

本学会は、1994年の発足以来、財政基盤の脆弱さから、理事や各種委員の会議出席のための旅費等を一切支払わずにやってきましたが、幸い会員増等により、やっと多少の補助ができる状態になりました。大会開催校に対しても実質的には補助がない時期が長く続きましたが、最近は大大会補助金を確実に出せるようになりました。『いま、子どもたちの放課後はどうなっているのか』（北大路書房）のデータとなった最初の調査の経費は、企画・実施された方々の自己負担に頼りましたが、現在は研究活動費の制度化が実現しています。こうしたお金にかかわる事柄については、前事務局長住田正樹先生の長年にわたる並々ならぬご苦勞があったことを忘れることはできません。

財政面の形は少しずつ整ってきましたが、学会の中身に関しては、なお検討しながら前へ向かって進んでいかねばならないことも、少なくないように思われます。研究発表件数は、何とか50に届くあたりを維持していますが、研究分野の偏りなどが見られます。とはいえ、「子ども史」（たとえば紙芝居の歴史的研究）など、発表件数は少なくとも頑張っている部会もあります。時代の先端を行くような調査研究も必要ですが、歴史研究や理論研究など、学会の基礎になる部会の内容を積み上げていく努力も不可欠だと思われます。

自由研究発表、ワークショップ、シンポジウム、ラウンドテーブルなど、大会の枠組みも、名称も含めて、これでよいのか、見直しの時期に来ています。また研究紀要の特集や大会の課題研究的なものについては、理事会や委員会レベルでは議論が行われてきましたが、早急に具体化を図る必要があります。紀要の編集では、論文審査のあり方の改善も進んできましたが、他の学会との重複投稿、字数オーバーなどについては、投稿者の方々にルールの遵守をお願いしなければなりません。中堅研究者による特集論文も必要でしょう。

本学会には、親学会を別に持つ会員の方も少なくありませんが、それぞれ本学会の意義を見出したうえでの参加が期待されます。本学会のいっそうの発展を願っています。

第15回大会開催校について

第14回大会の総会で承認された通り、第15回大会は松山大学で行われることになりました。開催校の所在地、日程は下記の通りです。大会案内、大会事務局連絡先など、詳細は別途お知らせいたします。皆様のご参加、ご発表をお待ちしております。

開催校：松山大学
〒790-8578
愛媛県松山市文京町4-2
日 程：2008年6月28日(土)、6月29日(日)

第15回大会開催校から

実行委員長 山田富秋

次回の日本こども社会学会の大会開催校を引き受けた松山大学の山田富秋です。こちらでは、愛媛大学の太田佳光会員、青井倫子会員、白松賢会員、それに松山大学の作田良三会員を構成メンバーとして、来年度の学会準備を開始したところです。

次の大会の公開シンポジウムのテーマとしては、少子・高齢化に関わる実態調査報告などを考えて

います。それから、準備委員会のメンバーにはフィールドワークなどの質的研究に関心を持つ会員も多く、子どもの活動をめぐるフィールドワーク研究や質的研究の現状についてレビューする機会も設けてはどうかと話し合っています。まだ他にも企画を考案中ですので、ご期待ください。

最後に愛媛県松山市の宣伝をしたいと思います。松山市は古くから道後温泉で有名ですが、最近、夏目漱石も通ったという道後温泉本館周辺が整備され、散策しやすくなりました。また、松山市は昨年からは新しい文化施設が次々とオープンしました。まず、今年開館した坂の上の雲ミュージアムは、明治期に近代日本建設に多大なる貢献をした秋山兄弟と正岡子規の交友を中心とした展示をしております。次に松山出身の俳優であり映画監督でもあった伊丹十三の記念館がオープンしたばかりです。さらにちょっと足を伸ばすと、しまなみ海道や内子もあり、みなさまの訪問をまさに待ちかかております。

第14回大会報告

1. ラウンドテーブル

ラウンドテーブル1

子守唄・わらべうたの伝承と普及に向けての取り組み

司会・コーディネーター	鵜野祐介（梅花女子大学）
話題提供者	尾原昭夫（わらべうた研究家）
	落合美知子（放送大学大学院生）
	長谷吉洋（エイデル研究所編集者）

本ラウンドテーブル参加者は、上記の話題提供者および司会の計4名の他に、途中の入・退席者も含めて10名で、学生スタッフ4名を合わせると、出席者は合計18名だった。

最初に参加者全員が自己紹介をした後、まず尾原氏が、ご自身の研究歴を振り返りながら、「わらべうたには目的がある」「伝承文化の性格」「わらべうたの年齢段階と時代変遷」「教育的機能としての子守歌・わらべうた」等をテーマに、伝承童謡の伝承・普及における理念的枠組みについて発表された。特に伝承童謡を含む伝承文学が、自発性・即興性・集団性・変転性・地域の独自性を属性として持つが故に、伝える人と受け継ぐ人との「絆」が生まれ、支えあい助け合う共同体的社会を育むことができると指摘された。

続いて落合氏が、自身による公共図書館での「わらべうた」を取り入れた「乳幼児向けおはなし会」の実践について報告され、おはなし会参加者の声が紹介された。「子育てにゆとりが生まれた」「家族中が楽しめる、決して古いものではない。わらべうたにもっと早く出会いたかった」等。そして今後の課題として、伝承の文化である子守唄やわらべうたを、今日の子どもと大人が共有する文化にしていく手立てをさぐる必要性を指摘された。

次に長谷氏は、自身が編集を担当したDVDブック『映像で見る0・1・2歳のふれあいうた・あそびうた』について、これまでの出版物の文字・楽譜による表現の限界を克服するために映像を用いたこと、日常の保育をベースに撮影し、「テレビ子育て」に使われないよう配慮したこと、そして保育や子育て支援の現場のみならず保育者養成の場（大学など）や小児科医院・病院などでも反響を得ていることなどを報告された。

その後、フロアから「娯楽としてのわらべうたと教育としてのわらべうた、それぞれの意義を区別して考える必要があるのではないか」「わらべうたを教材として取り上げたコダーイ・メソッドをどう考えるか」などの質問があり、意見が交わされた。最後に、専門領域や立場を超えて、伝承童謡の伝承と普及を大切と考える人たちが結集し情報交換ができる場やネットワークを早急に築いていくことの重要性が、参加者全員によって確認された。本ラウンドテーブルが、そのための第一歩となったことを願いたい。

（梅花女子大学 鵜野祐介）

ラウンドテーブル2

幼児の性自認に関する方法論的検討

コーディネーター	近藤 弘（立教大学） 望月重信（明治学院大学） 岸澤初美（立教大学兼任講師）
司会	岸澤初美 望月重信
話題提供	大滝世津子（東京大学大学院） 藤田由美子（九州保健福祉大学）

幼児期におけるジェンダー形成について、話題提供者、藤田氏の整理によると、80年代までは生物学的 sex が gender を規定することを前提とした発達論、社会化論が自明視されてきたが、近年において、子どもをジェンダー規範や価値を内面化させる「客体的」な存在としてではなく、子ども自身を日常生活世界を解釈し、実践する主体者としてとらえる構築主義的アプローチへとシフトしてきたという。幼児も大人の行動の模倣とは別にジェンダーを実践する。幼児の遊び場面には子ども自身によるジェンダー言説や権力構造が存在する。日本での実証を求めて、幼稚園や保育園での幼児の観察調査を行い、その知見が報告された。

同様にこれまでのジェンダーの社会化研究において不明であった、幼児が「性自認」するまでのメカニズムを求めて、話題提供者、大滝氏も幼稚園で実験と観察を行った。幼稚園入園時点では、大半の幼児が性自認していないという事実から始まった実験は、性自認の「ものさし」を教師の「オンナノコ/オトコノコ」という呼びかけに振り向いた場合とし、性自認した時期と3歳児クラスにおける同性集団の形成状況を観察測定し、関連を得た。

これらの問題提起に対し、活発な質疑が行われた。「呼びかけ」は性自認に結びつくのか、子どもの反応に対しては様々な解釈が成り立つことや、子どもが生活世界の意味づけをしているときは、どのように世界を（ジェンダーを）理解しているのかなど、また、保育の現場から実態を示唆する発言もあり、議論の硬直性を和らげた。

しかしながら、ディスカッションでは、ラウンドテーブルの直前に行われた研究発表部会での発表内容に対する質問が目立った。ラウンドテーブルの話題提供者と部会での発表者が同じであったため、また、内容的にも関連していたことによると思われる。これは部会での質疑の時間が十分でなかったことを示すのか、或いは単に発表内容の特性によるのかは不明であるが、ラウンドテーブルとは何か、司会者にはそのあり方を再考させるものであった。

（立教大学 岸澤 初美）

ラウンドテーブル3

子ども社会のなかのジェンダー ジェンダー・フリー教育を巡って起きていること（その2）

コーディネーター	高旗正人（中国学園大学） 住岡英毅（大阪青山大学）
司会	押谷由夫（昭和女子大学）
話題提供	小川哲男（昭和女子大学） 高旗浩志（島根大学）

本ラウンドテーブルでは、標題のような教師養成の喫緊の課題をめぐる意見交換が、二人の話題提供者・小川哲男会員（昭和女子大学）と高旗浩志会員（島根大学）、二人のコーディネーター・高旗正人会員（中国学園大学）と住岡英毅会員（大阪青山大学）それに20余名の参会者を交えて、押谷由夫会員（昭和女子大学）の司会のもとで活発に行われた。

まず、小川哲男会員は、昭和女子大学での取り組みの事例を、(1)全人教育プログラムの充実を目指

す「文化講座」「実践倫理」「学寮研修」「クラス活動」,(2)児童・生徒と向き合うプログラムとして開発した「附属学校への参加席」「授業参観」「インターンシップ」「休暇中の体験学習」,(3)「善い教師」としての実践的指導力を探究する「教育講演会」「スーパーティーチャー実践講座」「ファイルノート『善き教師への道』」,といった三つの視点から報告し、そうした教師養成の多彩なプログラムの根底に置かれている「豊かな教養と体験に裏付けられた、実践的指導力をもつ教師」についての話題を提供した。

続いて、高旗浩志会員は、島根大学教育学部での取り組みの事例を、(1)教育学部FD戦略センターの設置とFDの推進、(2)学部と社会を繋ぐ「協同」の組織化、(3)学部内の「協同」の組織化、といった三つの視点から報告し、今求められている教師力養成に向けた学内の体制づくりや地域社会との協同の必要性についての話題を提供した。周知のように、島根大学の教員養成では、全国に例をみない1000時間体験の必修化が行われている。ここでは、そうした新しい教師教育実践の理念や方法を根付かせるための学内および学外との共同体制づくりの重要性が、個別大学の実践を超える一般的なレベルで示唆された。

二つの話題は、ともに教員養成GPに採択されたプログラムに基づいている。話題の焦点化の違いはあるものの、子どもの社会的自立の育成に先行する教師志望者の社会的自立の育成という点で両者は一致している。会場で交わされた意見交換では、話題の現代性に共感を覚えつつも、(1)これまでの教師教育の何がどのように反省されたのか、(2)このようなプログラムのなかで見失われる高度な専門知識の伝達はどうか、(3)社会的自立は、周到に準備されたプログラムよりむしろ自由な学習のなかで育つものではないか、など教師教育の根本に立ち返っての意見が熱っぽく交わされた。

(大阪青山大学 住岡英毅)

第14回大会総会報告

1. 報告事項

(1) 2006年度事業報告

第13回大会の開催	2006年 7月 1日(土)~2日(日)	於：東京成徳大学
理事会の開催	2006年 6月30日(金)	於：東京成徳大学
	2006年 7月 1日(土)	於：東京成徳大学
	2006年 6月29日(金)	於：昭和女子大学
常任理事会の開催	2006年12月 2日(土)	於：龍谷大学 大宮学舎
	2007年 3月24日(土)	於：キャンパスプラザ京都
評議会の開催	2006年 7月 2日(日)	於：東京成徳大学
各種委員会の開催	2006年 7月 2日(日)	於：東京成徳大学
紀要編集委員会の開催	2006年10月 7日(土)	於：明治学院大学
	2006年12月 1日(金)	於：明治学院大学
	2006年12月 2日(土)	於：龍谷大学
選挙管理委員会の開催	2007年 2月10日(土)	理事選挙開票 於：法華クラブ京都
	2007年 3月 3日(土)	会長選挙開票 於：センチュリーホテル京都
共同研究事業プロジェクト委員会の開催	2006年 9月 5日(火)	於：東京成徳大学
会計監査	2007年 6月29日(金)	於：昭和女子大学
事務局活動	2006年 8月 4日(金)	研究紀要第12号発送
	2006年 9月15日(金)	会員カード発送
	2006年11月14日(火)	「学会ニュース」第13号発行
	2006年12月13日(水)	理事選挙 選挙人・被選挙人名簿(仮)発送

2007年	1月22日(月)	「会員名簿」(2006年12月現在)発送
2007年	1月26日(金)	平成19・20年度理事選挙投票用紙発送
2007年	2月16日(金)	第14回大会案内発送
2007年	2月22日(水)	会長選挙投票用紙発送
2007年	3月26日(月)	第14回大会プログラムの広告掲載依頼文発送
2007年	3月26日(月)	事務局移転作業開始
2007年	6月8日(金)	第14回大会プログラム発送

会員数(2007年6月13日現在)

正会員	563名
学生会員	61名
賛助会員	0団体
全会員数	624名

2006年度学会費納入状況(2007年6月13日現在)

正会員	563名中	412名	(73.2%)
学生会員	61名中	61名	(100.0%)
全会員数	624名中	473名	(75.8%)

- (2) 選挙管理委員会報告
- (3) 紀要編集委員会報告
- (4) 研究交流委員会報告
- (5) メディア活用委員会報告
- (6) 将来構想委員会報告
- (7) 研究奨励賞選考委員会報告
- (8) 共同研究事業プロジェクト委員会報告
- (9) 研究刊行委員会報告
- (10) その他

2. 審議事項

- (1) 平成19・20年度理事の選出及び会長の選出について
- (2) 推薦理事及び常任理事の推薦について
- (3) 監査の推薦について
- (4) 事務局長の選任について
- (5) 評議員の推薦について
- (6) 2006年度決算について(9頁参照)
- (7) 2006年度会計監査について(10頁参照)
- (8) 2007年度予算について(10頁参照)
- (9) 第15回大会開催校および開催日について
- (10) その他

平成19・20年度理事選挙・会長選挙の結果について

1. 当選理事

相原次男	小川博久	押谷由夫
加野芳正	三枝恵子	新富康央
住岡英毅	住田正樹	武内清信
永井聖二	原田彰	伴恒信
深谷和子	深谷昌志	望月重信

(五十音順)

2. 会長

住田正樹

3. 推薦理事

高旗正人(教育方法)
田中統治(カリキュラム)
細辻恵子(文化社会学)
持田良和(子どもの社会学)
山縣文治(社会福祉・児童福祉)
山田富秋(エスノメソドロジー)

専門分野等を考慮

4. 常任理事

望月重信(紀要編集委員会委員長)
武内清(研究交流委員会委員長)
住岡英毅(メディア活用委員会委員長)
田中統治(将来構想委員会委員長)
永井聖二(広報委員会委員長)
原田彰(研究奨励賞選考委員会委員長)
深谷和子(共同研究事業プロジェクト委員会委員長)
深谷昌志(研究刊行委員会委員長)

5. 監査

麻生武 木村敬子

6. 事務局長

細辻恵子

7. 評議員

上杉孝實	金崎芙美子	上 笙一郎
川勝泰介	倉本英彦	小平さち子
田中治彦	松澤員子	南本長穂
山本清洋		

(五十音順)

平成19・20年度役員名簿

【会長】

住田正樹(放送大学)

【理事】(…常任理事)

相原次男(山口県立大学)
小川博久(聖徳大学)
押谷由夫(昭和女子大学)
加野芳正(香川大学)
三枝恵子(東京成徳大学(非))
新富康央(東京純心女子大学)
住岡英毅(大阪青山大学)
武内 清(上智大学)
永井聖二(東京成徳大学)
原田 彰(広島大学(名))

伴 恒信(鳴門教育大学)
深谷和子(東京成徳大学)
深谷昌志(東京成徳大学)
望月重信(明治学院大学)
高旗正人(中国学園大学)
田中統治(筑波大学)
細辻恵子(甲南女子大学)
持田良和(龍谷大学)
山縣文治(大阪市立大学)
山田富秋(松山大学)

【監査】

麻生 武(奈良女子大学)

木村敬子(聖徳大学)

【事務局】(…長)

細辻恵子(甲南女子大学)
高橋 円(甲南女子大学大学院)

續木 希(甲南女子大学大学院)

【評議員】

上杉孝實(畿央大学)
上笙一郎(作家)
川勝泰介(京都女子大学)
倉本英彦(北の丸クリニック)
小平さち子(NHK放送文化研究所)

田中治彦(立教大学)
金崎英美子(宇都宮大学)
松澤員子(神戸女学院)
南本長穂(関西学院大学)
山本清洋(鹿児島大学)

【紀要編集委員会】(…長 …副 …幹事)

望月重信(明治学院大学)
持田良和(龍谷大学)
相原次男(山口県立大学)
青井倫子(愛媛大学)
麻生 武(奈良女子大学)
磯崎三喜年(国際基督教大学)
上杉孝實(龍谷大学)
鷓野祐介(梅花女子大学)
岡崎友典(放送大学)
加藤 理(東京成徳大学)
倉本英彦(北の丸クリニック)

三枝恵子(東京成徳大学(非))
渋谷真樹(奈良教育大学)
新富康央(東京純心女子大学)
多賀 太(久留米大学)
田中理絵(山口大学)
田村 毅(東京学芸大学)
中澤智恵(東京学芸大学)
樋田大二郎(青山学院大学)
南本長穂(関西学院大学)
森 繁男(京都女子大学)
山田浩之(広島大学)

【研究交流委員会】(…長 …副)

武内 清(上智大学)
加野芳正(香川大学)
内山詢子(目白大学)
熊沢幸子(昭和女子大学)

古賀正義(中央大学)
浜島幸司(上智大学大学院)
黄 順姫(筑波大学)
山縣文治(大阪市立大学)

【メディア活用委員会】(…長)

住岡英毅(大阪青山大学)

伊藤一統(宇部フロンティア大学)

高旗浩志 (島根大学)
 中田周作 (中国学園大学)
 西本裕輝 (琉球大学)

浜島幸司 (上智大学大学院)
 和田正人 (東京学芸大学)

【将来構想委員会】 (...長)

田中統治 (筑波大学)
 馬居政幸 (静岡大学)
 加藤 理 (東京成徳大学)
 新富康央 (東京純心女子大学)

須田康之 (北海道教育大学)
 南本長穂 (関西学院大学)
 山田浩之 (広島大学)
 山田富秋 (松山大学)

【広報委員会】 (...長)

永井聖二 (東京成徳大学)
 半田勝久 (東京成徳大学)

豊島理恵子 (東京学芸大学大学院)
 吉田美穂 (中央大学大学院)

【研究刊行委員会】 (...長)

深谷昌志 (東京成徳大学)
 高旗正人 (中国学園大学)
 武内 清 (上智大学)

望月重信 (明治学院大学)
 持田良和 (龍谷大学)
 深谷和子 (東京成徳大学)

【共同研究事業プロジェクト委員会】 (...長 ...副)

深谷和子 (東京成徳大学)

高旗正人 (中国学園大学)

【研究奨励賞選考委員会】 (...長)

原田 彰 (広島大学(名))
 川勝泰介 (京都女子大学)

南本長穂 (関西学院大学)

日本子ども社会学会 2006年度(2006.4.1~2007.3.31) 決算

<収入の部>

項目	収入	(内訳)
学会費(2006年度)	3,023,000	
正会員 7,000×397名		
学生会員 4,000×61名		
学会費(2007年度)	145,500	
正会員 7,000×19名		
学生会員 4,000×6名		
学会費(08,09年度)	32,000	
正会員 7,000×5名		
学生会員 4,000×0名		
学会費(過年度)	625,000	
正会員 7,000×85名		
学生会員 4,000×8名		
大会プログラム広告掲載料	186,000	
1頁(表紙裏) 18,000×1社		18,000
1頁(裏表紙裏) 20,000×1社		20,000
1頁(裏表紙) 22,000×1社		22,000

<支出の部>

項目	支出	(内訳)
紀要刊行費(第12号)	929,880	
印刷費	699,210	
第13回大会プログラム印刷費		254,400
プログラム訂正葉書印刷費		5,310
第14回大会案内・申込ハガキ印刷費		64,400
学会ニュース13号印刷費		47,600
名簿印刷費		204,000
選挙関係印刷費(含:選挙用封筒印刷費)		25,900
創刊号チラシ印刷費		9,600
封筒印刷費		88,000
振り込み用紙印字代		0
通信費	1,055,180	
第13回大会プログラム発送費		164,360
第14回大会案内・申込ハガキ発送費		85,540
学会ニュース13号発送費		72,480
会員カード発送費		72,480

1 頁	18,000 × 3 社	54,000
半頁	12,000 × 6 社	72,000
抜き刷り代		83,100
紀要売上		398,608
2,000 × 103 冊		218,608
セット販売 20,000 × 9 セット		180,000
前年度繰越金		5,692,163
紀要送料		10,370
学術著作権協会		18,229
出版社著作権協議会		23,000
通帳利子		446
一般会計収入合計		10,237,416

投票用紙返送用切手	52,000
名簿発送費	109,080
紀要第 12 号発送費(含:図書館への発送)	125,480
理事選挙関連発送費((仮)選挙人名簿・投票用紙)	138,480
事務局移転のための書類等発送費	43,340
理事会・各種委員会・会員通信費	191,940
事務用品費	73,874
事務局員交通費	133,060
紀要編集事務費	150,000
会議費 (理事会など)	196,466
各種委員会・理事会活動費	400,000
選挙関係担当委員交通費(2 回)	116,880
学会奨励賞(楯、賞状)	24,494
第 13 回大会シンポジウム謝金	50,000
第 14 回大会補助	500,000
事務局費	150,000
研究活動費	0
事務局費不足分	42,186
事務局引継のための交通費	37,470
一般会計支出合計	4,558,700

監査の結果、適正に執行されていることを確認いたしました。

監査 相原 次男
監査 岡崎 友典

日本子ども社会学会 2007 年度(2007.4.1 ~ 2008.3.31) 一般会計予算

< 収入の部 >

項目	収入 (内訳)
学会費(2007 年度)	3,020,000
正会員 7,000 × 408 名	2,856,000
学生会員 4,000 × 41 名	164,000
賛助会員 10,000 × 0 団体	0
大会プログラム広告掲載料	178,000
抜き刷り代	85,000
紀要売上 2,000 × 100 冊	200,000
前年度繰越金	5,678,716

< 支出の部 >

項目	支出 (内訳)
紀要刊行費	1,162,750
創刊号	162,750
第 13 号	1,000,000
印刷費	380,200
第 14 回大会プログラム印刷費	135,200
第 15 回大会案内・申込ハガキ印刷費	40,000
学会ニュース印刷費(2 回分)	100,000
封筒印刷費	100,000
振り込み用紙印字代	5,000
通信費	833,880
第 14 回大会プログラム発送費	111,780
第 15 回大会案内・申込ハガキ発送費	88,200
学会ニュース発送費(2 回分)	151,200
紀要第 13 号発送費(含:図書館への発送)	182,700
理事会・各種委員会・会員通信費	300,000
事務用品費	150,000
事務局員交通費(2 人 × 2 回)	50,000

		<table border="1"> <tr> <td>紀要編集事務費</td> <td>150,000</td> </tr> <tr> <td>会議費（理事会など）</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>各種委員会・理事会活動費</td> <td>400,000</td> </tr> <tr> <td>学会奨励賞（楯、賞状）</td> <td>50,000</td> </tr> <tr> <td>第14回大会シンポジウム謝金</td> <td>50,000</td> </tr> <tr> <td>第15回大会補助</td> <td>500,000</td> </tr> <tr> <td>事務局費</td> <td>250,000</td> </tr> <tr> <td>事務局移転関連費</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>研究活動費</td> <td>100,000</td> </tr> <tr> <td>予備費</td> <td>4,684,886</td> </tr> <tr> <td>一般会計支出合計</td> <td>9,161,716</td> </tr> </table>	紀要編集事務費	150,000	会議費（理事会など）	200,000	各種委員会・理事会活動費	400,000	学会奨励賞（楯、賞状）	50,000	第14回大会シンポジウム謝金	50,000	第15回大会補助	500,000	事務局費	250,000	事務局移転関連費	200,000	研究活動費	100,000	予備費	4,684,886	一般会計支出合計	9,161,716
紀要編集事務費	150,000																							
会議費（理事会など）	200,000																							
各種委員会・理事会活動費	400,000																							
学会奨励賞（楯、賞状）	50,000																							
第14回大会シンポジウム謝金	50,000																							
第15回大会補助	500,000																							
事務局費	250,000																							
事務局移転関連費	200,000																							
研究活動費	100,000																							
予備費	4,684,886																							
一般会計支出合計	9,161,716																							
一般会計収入合計	9,161,716																							

学会費は、会員数の75%見込みで計算。但し、2007年度分学会費を前年度までに納入している会員を除く。

既に2007年度の学会費を納入している会員数は、正会員19名、学生会員6名。

各種委員会からのお知らせ

研究交流委員会

本年度、研究交流委員会は理事会より託されて、いわゆる「ワークショップ」の今後のあり方について検討し、3月の理事会に提案しました。結果的には継続審議となったが、その際の実案は次の通りです。会員各位のご意見を理事会宛にいただければ幸いです。

	企画者	申込先	期日	経費（負担）
公開シンポジウム	大会校・理事会	理事会	前年 12月	謝金5万円（学会）
ラウンドテーブル	会員	研究交流 委員会	当該年 3月	（個人負担）
*自主シンポジウム	会員	研究交流委員会	3月	（個人負担）
*企画（課題）研究	学会（理事会）が企画して会員へ依頼（会員からの要請を受けての企画も）	理事会又は担当委員会より会員に依頼	1年前の3月理事会で決定	研究費として5万円程度（学会）

*ワークショップを含む

事務局からのお知らせ

(1) 学会費納入

本年度(平成19年度)の学会費未納の方は、郵便振替にてお納めください。学会費を滞納されますと会員資格が失われます。口座番号等は次のとおりです。なお、通信欄には必ず何年度の学会費かをご記入ください。

口座番号	01760-1-85048
加入者名	日本子ども社会学会

(2) 会費

平成13年度より会費が値上げされています。学会費振込みの際はご注意ください。

正会員 7,000 円、	学生会員 4,000 円、	団体会員 10,000 円
--------------	---------------	---------------

(3) 学会入会手続き

本学会へ入会を希望される方は、学会事務局(住所は1頁参照)まで、切手を添付した返信用封筒を同封の上、ご連絡ください。事務局より入会案内書をお送りいたします。入会される場合、入会申込書に必要事項を記入の上(現学会員の推薦が必要)会費を郵便振替にて納入してください。

(4) 住所・所属等の変更

住所、所属、電話番号等に変更があった場合、必ず学会事務局へお知らせください。これらの変更は『学会ニュース』にてお知らせいたします。また、退会される方も、必ず学会事務局へお知らせください。いずれの場合も、電話ではなく葉書やFAX、E-mail等の書面にてお願いします。

(5) 『子ども社会研究』創刊号の販売について

『子ども社会研究』は、現在、13号まで発刊されていますが、創刊号はすでに品切れとなり、入手困難な状態になっておりました。そこで、皆様のご要望により、『子ども社会研究』創刊号を再版いたしました。購入希望の方は、下記の要領で郵便振替にて紀要代金(1冊2,000円)と送料をお振込みください。また、その他の号の販売も受け付けております。送料等、詳しくは、学会HPをご覧ください。

口座番号	01760-1-85048
加入者名	日本子ども社会学会
通信欄	<u>「子ども社会研究」第 号代金および送料として</u>

(6) 献本

岩田 遵子 著 『現代社会における「子ども文化」成立の可能性』
風間書房 2007年2月28日発行 11,500円

-
- 住田 正樹・多賀 太 編著 『子どもへの現代的視点』
北樹出版 2006年12月25日発行 2,800円
- 大西健夫・堤清二 編著 『国立の小学校』
校倉書房 2007年3月20日発行 2,500円
- 小針 誠 著 『教育と子どもの社会史』
梓出版社 2007年5月20日発行 2,300円
- 梅花女子大学・大学院児童文学会 『梅花児童文学』第15号
2007年6月17日発行
- 黄 順姫 著 『同窓会の社会学』
世界思想社 2007年6月20日発行 2,000円
- 深谷 昌志 著 『昭和の子ども生活史』
黎明書房 2007年9月30日発行 7,500円
- 本田 和子 著 『子どもが忌避される時代』
新曜社 2007年10月25日発行 2,800円

- 事務局から -

事務局では『大会プログラム』に掲載する広告を募集しています。広告掲載を希望する出版社等をご存知でしたら、ご紹介ください。

〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

甲南女子大学人間科学部行動社会学科 細辻研究室気付

FAX : 078-413-3007(人間科学部事務室)

E mail : jscs@kodomo-cu.jp

新入会員

(略)

退会者

(略)

住所・所属等変更

(略)